

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ職員みんなで自己評価!
ステップ外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない
訪問調査を実施しております

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和3年7月29日

【アンケート協力数】※評価機関記入

令和2年12月11日 集計

家族アンケート	(回答数)	17	(依頼数)	18
地域アンケート	(回答数)	5		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3870104308
事業所名	グループホーム わかば
(ユニット名)	3階
記入者(管理者)	
氏名	山本 有紀
自己評価作成日	令和3年 7月1日

<p>【事業所理念】※事業所記入 家庭的な環境と地域交流のもと、笑顔とやさしさ溢れる穏やかな暮らし、個性を尊重し健康で生きがいがある生活、地域に支えられ、地域と共に生きるふれあいづくりを目指します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 ①運営推進会議にて運営推進委員の方と地域のニーズについて話し合う。その時に「公民館の行事に参加してみたい」と提案されたので、三津浜公民館での行事を回覧板で把握できるようにして参加するようにした。(目的としては、まずは入居者・職員の顔を地域の方に覚えてもらうため。)その結果としては、まだまだ参加が足りないのが成果は出ていないと思う。 ②運営推進会議の会場を、デイサービスわかばからグループホームわかばに変更した。その結果、ホームの雰囲気を感じながら会議を実施できるようになった。入居者・職員が毎回参加できるようになった。そして、地域の方に「誕生日に絵手紙を届けてもいいですか?」と言っていただけた。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 お昼の迎え火や送り火を事業所で行い、ご先祖様に手を合わせる機会をつくり、鹿島神社の神楽に笛や杖の下に敷いた蓑形を奉納したりして、利用者が大切にできたことを重視した支援に取り組んでいる。 誕生日には、ケーキとプレゼントを用意して祝っており、他の利用者から一言ずつ、本人へお祝いの言葉をかける場面をつくらせている。涙もろい人が誕生日のプレゼントに「ありがとう」と言って泣くと、「よかったなあ」と言ってもらい泣き出すような利用者もいる。 数日前から新聞のチラシをみて「うなぎが食べたいな」と話したりして、土用の丑の日を楽しみに待って食事を楽しんでいる。秋祭りには、鳥で暮らしていた人の馴染みの味のちらし寿司を再現した。正月には「ビールが日本酒が飲みたくない」と希望があり、いろいろ考えてインアルコールビールで乾杯した。</p>
--	--	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	細かいアセスメントや介護記録に残し、本人の希望を職員皆が把握できるようにしています。	◎		◎	介護計画作成前には、利用者の姿絵を中心に書き、その周りに「今の不安や苦痛」「生活上の希望」「今の楽しみ」などの情報を記入したアセスメントシートを作成している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	その人の日常や行動パターンを知ることで本人の立場で検討するように心がけています。				七夕には短冊に願いを書き、正月には絵馬に目標などを書き、季節行事の中でも利用者が、願いや意向を表わせる機会をつくっている。
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	気になることがあれば家族と話し合うようにしています。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	介護記録を細かく書くようにしています。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	まずは本人が言っている事や気持ちを受け止められるように心がけています。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	家族には入居時や面会時に聞くようにしています。本人とは会話をたくさんすることで把握できるようにしています。			◎	新型コロナウイルス対策期間に入居した利用者については、家族とゆっくり話すことが難しいため、アセスメントシートを渡して利用者の情報を書いてもらっている。その後、聞いたことは職員が追加している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	まずアセスメントを行い、その後は記録や申し送り現状の把握に努めています。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	介護記録で共有できるようにして、把握しています。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	ミーティングや申し送りで要因について話し合っています。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	介護記録を詳しく書くことで把握できるようにしています。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	職員の視点ではなく本人の視点に近くなるように心がけています。			◎	計画作成前には、アセスメントシートを作成しており、ミーティング時は、それをもとに職員で情報を出し合い検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	いつも楽しく過ごしてもらえような支援を心掛けています。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	楽しく過ごす中に元気にしてもらおう事、安全であることも含めて考えています。				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	全ては難しいが、意向の多くが反映されていると思います。				
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	面会時に話す機会を作っています。	○		◎	家族には事前に意向を聞いておき、計画に反映している。「自分のことは自分でしたい」という意向がある利用者には、リハビリの先生のアドバイスを採り入れていた。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	無理なく、そして少しでも楽しめる生活が出来るように考えています。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	今現在、地域との協力体制が盛り込まれた内容にはなっていません。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	毎回更新するたびにケアマネジャーから説明があり、更にケアプランのファイルがあるので再確認もしやすくなっています。			◎	毎月のミーティング時に全利用者の介護計画について意見等を出し合うことで把握や共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	毎日確認できるようにチェック表があります。			◎	介護計画実施チェック表に実施状況を○△▽/で記入している。
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的な内容を個別に記録している。	◎	介護記録に細かく記入するようにしています。			△	介護記録に記入しているが、情報量は少なくその内容を探さなければならない。
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	介護記録に記入するのがすべてになっています。事故・ヒヤリに関しては個人ファイルに切り替え、対応策がすぐ確認できるように変更しました。			○	毎月のミーティング時に話し合っている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間に応じて見直しています。			◎	ケアマネジャーが責任を持って期間を管理しており、6か月ごとに見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月モニタリングを行なっています。			◎	月1回、介護計画実施チェック表をまとめ、評価しており、それをもとに、ミーティング時に現状確認を行っている。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	退院時や看取りなど、変化があった時に見直しを行なっています。			◎	退院後に、身体状態に変化がみられ、介護計画の見直しを行ったケースがある。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	必ず月に一回はミーティングを実施しています。			○	毎月、ミーティングを書面で行っている。事前に職員の見解等を聞いている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	モニタリングをする中で皆が思った事を言うようになっています。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	なるべく多くの人が参加できるように日程を決めています。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	議事録を作成し全員に見てもらっています。			◎	職員は、議事録の内容を確認してサインをするしくみをつくっている。重要な事柄は、管理者が口頭でも伝えている。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容や方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	掲示板や日報で共有できるようにしています。			○	朝夕の申し送りや業務日誌で申し送りを行っている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	毎日申し送りをしています。また、すぐに読み返せるようにしています。		◎		
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	ホーム内での事になりますが、叶えられるように努力しています。				
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	「どうされますか?」と聞くようにしています。また、一緒に考えるようにしています。			○	七夕の日には、飾りいなり寿司とそうめんを手作りして、そうめんの具は利用者と一緒にいる揃えて、バイキング形式にして、個々が好きなものを選んでもらえるように工夫した。
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	選択できる機会を増やすようにしています。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	なるべく本人のペースを大切に生活してもらっています。				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うろたえ等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	たくさんコミュニケーションをとり、それぞれの好きな事をして楽しめるような雰囲気を作れるようにしています。			◎	敬老会や父の日、母の日などは、感謝の言葉を伝えて余興やゲームなどをして楽しんでいる。利用者は「こんな誰かしてくれよか」と言って喜んだようだ。クリスマス会には、ビンゴゲームをしてプレゼントを用意した。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	少しでも本人の気持ちに寄り添えるように支援するように心がけています。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	内部研修で定期的に学んでいます。	◎	◎	◎	奇数月に内部研修を行い学んでいる。お盆の迎え火や送り火を事業所で行い、ご先祖様に手を合わせる機会をつつたり、厳島神社の輪越に個々が枕の下に敷いて寝た寝形を奉納したりして、利用者が大切にできたことを重視した支援に取り組んでいる。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であらさな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	◎	声掛けをするときには耳元あるいは他の人に聞こえないように配慮しています。			◎	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	◎	必要のない大きな声掛けはしないようにしています。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	訪室するときは必ず本人に入ること伝える、ノックする等を意識しています。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	研修で学んだことをミーティングなどで繰り返し確認することで意識しています。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを借りたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	職員もいい意味で甘えながらお互いに「ありがとう」という言葉を大切に生活しています。				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	ボタンをとめてあげたり、転げないように声を掛け合ったりする場面を職員は見守っています。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者につまづき力を発揮してもらう場面をつくる等)	◎	距離を考えたが、仲良く話せる関係も大切にしています。職員が中心にならず、お任せしている事もあります。			◎	誕生日には、ケーキとプレゼントを用意して祝っており、他の利用者から一言ずつ、本人へお祝いの言葉をかける場面をつくっている。涙もろい人が誕生日のプレゼントに「ありがとう」と言って泣くと、「よかったなあ」と言ってもらい泣きするような利用者もいる。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルはあまりないが、職員は中立な立場に立ち回るように心がけています。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	家族との関係は把握できているが、友人・知人については把握できていません。				/
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	×	把握できていない人の方が多いです。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	今現在は行えていません。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	×	今現在は面会中止なので行えていません。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	出来る限り毎日外気浴や散歩が出来るよう支援しています。	○	○	△	春には公園に桜を見に出かけた。マスクを付けて、散歩したりする機会が少ない。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	今現在は行えていません。				ペランダに出て過ごす機会をつくっている。
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	ペランダで外気浴が出来るようにしています。短時間ですが散歩にも行けています。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	今現在は行えていません。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	正しく理解できるように分からないことは皆で話し合うようにしています。				
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	毎日運動したり、家事をしたり、たくさん会話をしたり…自然に維持できるように取り組んでいると思います。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	いつでもそっと見守るようにして、困った時には手伝うようにしています。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	生活歴はもちろん、ホームでの日常生活を送る中で楽しめていることなどは記録に残し把握しています。				室内での行事の機会を多くつくっている。わかば夏祭りを行った際には、利用者も看板やゲームなどに使う小物をつくり、準備段階からかかわった。屋台の食べ物や飲み物を金券で買うなど雰囲気味わえるように工夫した。動きたがらないような利用者について、午前中、1階まで新聞を取りに行く役割をつくり、介護計画に挙げて支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	家事を中心に毎日役割を持てるように取り組んでいます。	○	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	今現在は行えていません。				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	今まで使っていたものを継続して使用してもらっています。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	ホームに入るからといって変更したりせず、使い慣れたものを持ってきて頂いています。				
		c	自己決定がにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	選ぶのが難しい場合には、一緒に考えるようにしています。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	衣替えのタイミングは職員が行う事が多いですが、そのあとは自分で選べるようにしています。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	そっときれいにするように心がけています。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	訪問美容を利用しています。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	清潔に保てるように心がけています。			○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	口から食べる事の大切さ、美味しいものを食べる喜び等日頃から実感しています。				数日前から新聞のチラシをみて「うなぎが食べたいな」と話したりして、土用の丑の日を楽しみに待って食事を楽しんでいる。 秋祭りには、島で暮らしていた人の馴染みの味のちらし寿司を再現した。 正月には「ビールか日本酒が飲みたいな」と希望があり、いろいろ考えてノンアルコールビールで乾杯した。 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。 配膳する時には、職員が「今日はお魚にしてみました」等、声をかけるようにしている。 食事をみて「わあ、きれい。」「おいしいね。」と感想を言う利用者があり、盛り付けは彩りを良くして食欲が増すように気を付けている。 定期的話し合う機会は持っていない。 食事内容や献立、調理方法については、その場で口頭で話し合っている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	買物は行けていませんが、盛り付けや後片付けは一緒に行っています。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の方の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	昔の記憶がよみがえることもあったり、話が弾むことも多いです。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入居時に確認しています。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	苦手なものは分からないように配慮しています。季節のものや行事食も用意しています。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いれどりや器の工夫等)	◎	その人に合わせた調理方法を見直しながら工夫しています。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	家から持参してもらうようお願いしています。			評価困難	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	×	今現在、職員は別で食事を摂っています。見守るだけになっていますが、さりげなくサポートできるように心がけています。			評価困難	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事についての会話をしたり、楽しみにできるような雰囲気づくりを心掛けています。	◎	◎		
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食べられる量を出すようにしています。血液検査の結果を参考にすることもあります。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	一回の水分を少なくして回数を増やしたり、栄養補助食品(エンシュア・ラコール)を使用しています。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	調理方法の話し合いは頻繁に行っています。研修などを参考にしています。			△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	常に清潔に使用できるように管理しています。				
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口腔内の残渣物や唾液でも誤嚥性肺炎を引き起こす原因になると理解しています。				
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	自分で口腔ケアをしている方の健康状況は不十分かもしれません。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	口腔指導に来ていただいた時に分からないことは聞くようにしています。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	曜日を決めて洗浄するようにしています。				
		e	利用者の力を引き出ししながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	基本的には自分で口腔ケアをしてもらっています。見守りをする中で磨き残しがあれば声をかけるようにしています。			評価困難	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	本人の希望はもちろん、介助している中で必要な時には歯科往診に来てもらっています。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	理解しています。紙パンツは便利だけど、こんなこともできなくなったのか・と自信をなくしてしまうので使用については十分注意しています。				ミーティング時におむつ使用の利用者について、必要性や適切性について話し合い検討している。夜間、トイレに行くまでが間に合わないような利用者について、パッドサイズを見直した事例がある。介護計画に「気持ちよく排泄できる」ことを挙げて取り組んでいる事例がある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	運動や水分が少ないと便秘になる可能性が高いことや便秘になるとイライラしたり精神的にも落ち着かない等の影響があると理解しています。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排便・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表を利用し把握に努めています。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	毎月のミーティングやケアプランのモニタリング等で見直しを行なっています。	◎	◎		
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	ポータブルトイレを設置してみたり、声掛けを行なったりと改善に向けた取り組みを行なっています。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄チェック表をつけ、個々のパターンを把握し誘導しています。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	日中と夜間に対応を変えたり、家族とも話し合うようにしています。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	1人1人に合わせて使い分けています。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	乳製品を摂ったり、水分量をチェックしたり、献立も配慮しています。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	時間帯は決めてしまっています。入浴の長さや温度はその人に合わせて聞きながら入浴してもらっています。	◎		○	週に2~3回午後に入浴できるように支援している。入浴を嫌がる人には「家族が入ってほしいと言ってるよ」等と声をかけることもある。しょうぶ湯やゆず湯、寒い日には足湯なども行っている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	ゆっくりと入浴できるよう余裕をもって支援しています。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	出来るところは見守りし、出来ない所を手伝うようにしています。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いをせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	特に無理強いはせず、入浴するときは納得してから入ってもらっています。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタルや様子をみて決めています。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	日々の申し送りや、記録にて把握するようにしています。				約半数の人が医師と相談して睡眠導入剤を使用している。日中は活動的に過ごし、夕食後はテレビの音量を小さくするなどして、落ち着けるような雰囲気をつくっている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	外出したり、活動量を増やすなど、眠れるように工夫しています。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	薬を使用するときは、不眠の原因や日中の本人の様子を十分に検討してからにしています。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	本人のペースに合わせて、いつでも休む時間を取れるようにしています。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	メッセージカードを時々書いています。				約半数の人が医師と相談して睡眠導入剤を使用している。日中は活動的に過ごし、夕食後はテレビの音量を小さくするなどして、落ち着けるような雰囲気をつくっている。
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	一緒に書いてみたり、他の用紙に練習してみたり、出来ない所を手伝うようにしています。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	今現在は、かかってくる電話を取り次ぐ方が多いです。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	きちんと手渡しし、必要な時は代読しています。そして、分かるようにまとめて片付けています。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	ケアプランで協力を求める事もあります。また、行事や誕生日に手紙が届くこともあります。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解できていると思います。				/		
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	以前は家族と相談し、自分のものは近所に買い物に行けるようにしていました。今現在は行えていません。						
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	買物に行くところは協力的です。しかしながら、今現在は行えていません。						
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	必ず家族と話し合って決めています。						
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	まず契約時に話し合って決めます。						
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	管理できなくなってきたら、家族に相談していません。ホームで個人的に金銭を預かることはしていません。						
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに採り入れられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	そのようなことがあれば、すぐに断らず、話し合えるようにしています。	◎		○	家族の都合に沿い、受診などを支援するケースがある。		
(3) 生活環境づくり											
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関にも季節の飾りをしています。しかしながら、道路から入り込んでいるので、気軽に出入りできるかは不安です。	◎	○	○	事業所の入り口にウェルカムボードを置き、季節の飾り付けをしている。		
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を持っており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾り付けをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそくような設えになっていないか等。)	○	なるべく季節を感じられたい、暖かさを感じられるような雰囲気作りをしています。	◎	◎		評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日、拭き掃除まで行っています。その都度キレイに出来るように心がけています。				評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節を感じられるような花や壁飾りを作っています。				評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	周りにソファがあったり自分の席があったり、好きなように過ごせるようになっています。						
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	使用中は見えないように扉を閉めたり暖簾をかけたりにしています。						
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	使い慣れたものを持参されていると思います。また、なるべく動きやすいようにしています。	◎			評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	特に問題なく生活できています。分からないことは、皆で教えあって生活しています。				評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	間違えやすいものは置かないようにしています。						
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、織物道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	棚に片付けてあるものもあるので、いつでも手に取れるとは言えないかもしれませんが。						
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられられない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	日中はカギをかけないという事が当たり前になっているので、	◎	◎	◎		日中、玄関などには鍵はかけていない。職員は、「施錠しないことは当たり前」と認識している。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	今の所、施錠を望まれているご家族はいらっしゃいません。理解されていると思っています。						
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけるなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	エレベーターは死角になるので、音が鳴るようにしています。						
(4) 健康を維持するための支援											
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	医務ノートで情報共有を行い、さらに介護サマリーを作成し、常に最新の情報が確認できるようにしています。				/		
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	個人バイタルチェック表を活用し、日頃から変化はないか確認できるようにしています。						
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重症化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	毎週、往診表でかかりつけ医へ情報共有を行い、すぐに相談できるようにしています。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	出来る限り希望に沿えるように支援しています。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	何かあれば、まず家族に説明するようにしています。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	常に情報共有が出来るように、ご家族と話し合いをしています。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	介護サマリーを作成し、情報提供が出来るようにしています。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	定期的な連絡を取り、情報交換しています。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	×	特別に関係づくりを行ってはいません。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	往診表があるので、定期的な報告が出来ます。				
		b	看護職もしく訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	内線ですつながるようになったので、更に気軽に連絡できるようになりました。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎週の報告等で情報共有できているので、伝わりやすく対応が早いと思います。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	理解しています。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	表やボックスを活用し、事故のないように対応しています。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	状態の変化があったとき、副作用ではないか?という事も考えるようにしています。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	記録に細かく書くようにして、すぐに先生や薬剤師に相談しています。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	まずは契約時に話し、その後は状態の変化と共に確認するようにしています。				医師や家族、職員で話し合い方針を共有して支援している。アセスメントシートには、本人の看とりについての願いや想いを設けており、介護計画作成前に情報を更新している。この一年間では、本人のことをよく知る家族の意向を踏まえて、事業所内で自然なかたちの看とりを支援した事例がある。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	毎年一人は看取り研修に参加するようにしています。また協力医療機関との相談もその都度しています。	○	◎		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	正しく見極められているか分からないが、職員の思いを聞くようにしています。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	状態の変化に応じて説明を行なっています。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	少しの変化でも先の事を考え、検討や準備を行なっています。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	支えになれているかは分からないが、面会の時に話を出来るようにしています。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	年に一回は内部研修を行なっています。その都度、分かりやすいファイルを作るようにしています。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	体制は整えているが、訓練は行えていません。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	県や市等からの情報は本部より共有されています。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	随時対応しています。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	徹底できています。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	協力してもらえるよう、色々な話をするようにしています。				新型コロナウイルス感染症対策期間のため評価はできない。 月1回、ユニット毎にわかば便りを作成しており、誕生会や行事などの様子を写真入りで報告している。また、職員が日頃の様子を手紙に書き同封している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	以前は行えていましたが、今現在は出来ていません。いつでも訪れる事が出来るように清潔にはしています。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	以前は外食や散歩など行えていましたが、今現在は出来ていません。	○		評価困難	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月連絡表を送っています。また、状態が変わった時は電話連絡をしています。	◎	◎	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	こちらからの報告時に知りたいことは他にないかなどご家族に聞くようにしています。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	ご家族に今のご本人を理解してもらえようという面会時や連絡表で細かく伝えています。				
		g	事業所の運営上の事務や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	本部を通じて、報告しています。	△		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	今現在は出来ていません。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	状態が変わった時、ヒヤリハット発生時、さらにケアプラン変更時に話すようにしています。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	何かあればすぐに電話をしたり、面会の時に話すようにしています。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	毎回説明できています。				/
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	その都度、家族と話し合えています。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	本部の担当職員が、その都度説明し、同意を得ています。				
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	少なくとも運営推進会議に出席してくれている方は理解されていると思います。		◎		公園まで散歩する時に庭の花をくれる人がいるなど、近所の人が親しくしてくれる。運営推進会議の報告書は、職員が地域メンバーのお宅にポストインしている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	散歩中に挨拶を交わすことは出来ていると思います。		○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	支援はしてくれているが、増えているかどうかは分かりません。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	なかなか日常的には難しいです。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	今現在は出来ていません。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	今現在は出来ていません。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	今現在は出来ていません。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	今現在は出来ていません。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	家族は難しいが、地域の方は協力的です。	○		○	会議は、地域住民と地域包括支援センターなどで書面開催で行っている。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	サービス内容については毎回報告は出来ていますが、外部評価については継続出来ていません。			○	活動報告、事故報告などを行っている。 外部評価実施後は、目標達成計画を立て報告した。	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	災害についてはよく一緒に考えてくださいます。しかしながら、ここ1年開催できていません。			◎	△	地域包括支援センターからの感想や意見がある。取り組みに活かしたり、状況や結果を報告するには至っていない。 会議メンバーから意見をもらえるような取り組みを工夫してほしい。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	いつも同じ日程・時間にして事前に連絡するようにしています。			◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	玄関にファイルにして公表しています。					
IV.より良い支援を行うための運営体制										
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	理念に基づいたケアが出来るように振り返る機会を持っています。					
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	フロアの見えるところに掲示しています。	○	○			
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービスの代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	内部研修を受けています。外部研修は、今年はオンライン提供にしています。					
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	×	使用していません。					
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	出来ていると思います。					
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	機会がありますが、今年は参加できていません。					
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	何かあれば、相談できるようになっています。	○	◎	○		休憩時間を取っている。 休暇が取れるようにシフトに配慮している。 職員の定着に向けた取り組みとして「成長カード」を活用している。職員個々に目標を立て、みんなで評価し合うようなくみで、管理者は効果を感じていた。
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	毎年研修を受けています。					
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	ミーティングで話し合っています。					
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	常に適切なケアが出来るように話し合っています。発見した場合は、報告・相談するように伝えています。			○	内部研修時に勉強をしている。	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	疲労が溜まらない様に配慮するようにしています。					
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	毎年研修を受け理解できるようにしています。					
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	身体拘束適正化委員会を通して話し合える機会を作っています。					
		c	家族等から拘束や施設等の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	その都度、話し合えるように準備しています。					
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	資料などは置いているが、全員が理解できているとは言えません。					
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	ここ2年ではそういう機会がなかったです。					
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	包括支援センターとは日頃から情報共有できるように努めています。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルを作成し、各自が自由に確認できるようにしています。					
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	講習を受講しています。					
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	利用者ごとに報告書をまとめ、分析できるようにしています。					
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	ミーティングでその都度話し合えるようにしています。					
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	ファイルは作成していますが、周知できていないので話し合いが必要だと思います。					
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	×	対応したことはありません。					
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	×	対応したことはありません。					
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日常生活の中で要望を聞くことが出来るように努めています。			×	利用者が運営について意見等を伝えるような機会はほとんどつくっていない。	
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会や電話連絡の時に聞くことが出来るように努めています。	◎		△	電話で報告して意見を聞いている。面会方法についての意見等がある。運営推進会議(書面会議)には参加していない。議事録の送付のみに止まっている。	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	契約時しか行っていない。					
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	提案しやすい雰囲気を作ってくれています。要望は早く叶えてくれています。					
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ミーティング・申し送りの時に聞くようにしています。			○	毎月のミーティング時には、事前に意見を出してもらっている。	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	毎年実施できています。					
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	ミーティングの時に話し合う機会を持つようになっています。					
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	計画を作成し、取り組んでいたが、現在は出来ていません。					
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	一度だけ報告しました。	○	○	△		外部評価実施後は、目標達成計画を立て報告した。モニターをしてもらう取り組みは行っていない。
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	継続出来ていません。					
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	一通り作成されていて、ファイルしてあります。					
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	今年は1回訓練の機会がありました。					
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食用料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	×	出来ていません。					
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	新型コロナウイルスが流行する前は、訓練にさんかしてもらったりしていました。今年は出来ていません。	○	◎	○		3月に、消防署の協力を得て夜間の火災を想定した避難訓練を行っている。火災発生時には、町内見守り隊が駆けつけてくれることになっている。
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	地域の訓練があれば参加するようになっています。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	取り組めていません。				相談支援する取り組みは行っていない。 現在は協働した活動は行っていない。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	そういう機会がありませんでした。		△	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェイベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	活用できていません。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	3階では行っていません。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	出来ませんでした。			×	